

科目名	漢方医薬学			ナンバリング	CHE442	授業形態	講義
対象学年	2	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	1単位
代表教員	松本司	担当教員	○松本 司				

授業の概要	患者一人ひとりの病状を見極め、その個人に合った漢方を処方し使い分ける「テーラーメイド医療」の原点ともいえる漢方の考え方、現代医学との違いを理解することを目的とする。 「漢方医薬学」では漢方薬と西洋薬の相違、漢方医学における病態の把握と漢方薬物治療、代表的な漢方処方の適応症と配合生薬、漢方薬の作用メカニズム、漢方薬の副作用と服薬指導などについて解説する。
到達目標	1. 漢方医学の特徴について概説できる。 2. 漢方薬と西洋薬(現代薬)、民間薬などの相違について説明できる。 3. 配合生薬により漢方処方の系統的な分類が説明できる。 4. 「証」や「陰陽」、「気血水」などの漢方医学の基本用語を説明できる。 5. 漢方薬の使用上の注意点、相互作用、副作用とその兆候を例示して説明できる。 6. 代表的な漢方処方の適応症と配合を説明でき、漢方処方に配合されている代表的な生薬を例示し、その有効成分を説明できる。
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	1年次の「薬の基原」、および2年次前期の「生薬学」と関連の深い教科であるため、これらの教科の復習をしながら、漢方医薬学を学習することを強く望む。
ディプロマポリシーとの 関連	【薬学部薬学科のディプロマポリシー】
	○ 1. 薬剤師の社会的義務を認識し、医療の担い手としてふさわしいヒューマンズムと倫理観を具現できる。
	○ 2. 医療分野における問題点を発見して解決するために、研究マインドと知識を統合・活用する力を有する。
	○ 3. 患者本位の医療を実施するために、チーム医療における円滑なコミュニケーションをとることができる。
	○ 4. 地域の医療および保健に貢献するために、薬剤師としての実践的能力を有する。
	○ 5. 薬剤師として科学と医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学習ができる。

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
漢方医学の特徴について概説できる。 配合生薬により漢方処方の分類が説明できる。 「証」や「陰陽」、「気血水」などの漢方医学の基本用語が例示できる。 漢方薬の使用上の注意点、相互作用、副作用を説明できる。 代表的な漢方処方の適応症を説明でき、漢方処方に配合されている代表的な生薬を例示できる。	現代医学との違いを例示しながら、漢方医学の特徴について概説できる。 配合生薬により漢方処方の系統的な分類が説明できる。 「証」や「陰陽」、「気血水」などの漢方医学の基本用語を例示して説明できる。 漢方薬の使用上の注意点、相互作用、副作用とその兆候を例示して説明できる。 代表的な漢方処方の適応症と配合を説明でき、漢方処方に配合されている代表的な生薬を例示し、その有効成分を説明できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○						100%
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加							

課題、評価のフィードバック	時間内に実施した小テストについて解説を中心としたフィードバックを行う。
---------------	-------------------------------------

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	漢方医学概論	漢方医学の特徴について概説する。	SBO:E2-(10)-①-1.2.ア-C5-⑤-2. ア-E2-①-1.2
	第2回	漢方薬と民間薬	民間薬、漢方薬のちがいについて解説する。	SBO:E2-(10)-①-1.4
	第3回	漢方医学と西洋医学	漢方薬と西洋薬(現代薬)、民間薬などとの相違について解説する。	SBO:E2-(10)-①-1.4.E2-(10)-②-3. ア-E2-②-1
	第4回	漢方医学の基本概念	「証」や「陰陽」、「気血水」などの漢方医学の基本用語について説明する。	SBO:E2-(10)-①-1.2
	第5回	漢方治療の基礎①	漢方薬のエキス剤について解説する。	SBO:C5-(1)-③-2
	第6回	漢方治療の基礎②	漢方薬の使用上の注意点、相互作用、副作用について説明する。	SBO:E2-(10)-②-1.2.3.E2-(10)-③-1
	第7回	漢方治療の基礎③	漢方薬の使用上の注意や服薬指導について説明する。	SBO:E2-(10)-②-1.2.3.E2-(10)-③-1
	第8回	まとめ 中間試験	第1回から第7回までの理解度を確認するための試験を実施する。	
	第9回	漢方薬の基礎① -かぜ症候群-	体質や病気のステージからかぜ症候群に対する漢方医学的な治療法および頻用される漢方薬について解説する。	SBO:E2-(10)-②-1.2.3.E2-(10)-③-1
	第10回	漢方薬の基礎② -婦人科系疾患-	体質や病気のステージから婦人科系疾患に対する漢方医学的な治療法および頻用される漢方薬について解説する。	SBO:E2-(10)-②-1.2.3.E2-(10)-③-1
	第11回	漢方薬の基礎③ -消化器系疾患-	体質や病気のステージから消化器系疾患に対する漢方医学的な治療法および頻用される漢方薬について解説する。	SBO:E2-(10)-②-1.2.3.E2-(10)-③-1
	第12回	漢方薬の基礎④ -生活習慣病-	生活習慣病に対する漢方医学的な治療法および頻用される漢方薬について解説する。	SBO:E2-(10)-②-1.2.3.E2-(10)-③-1
	第13回	まとめ	第1回から第12回までの講義の要点をまとめる。	
	第14回			
	第15回			
	試験	全講義終了後に期末試験(筆記試験)を行う。この他、講義時間内に講義内容の理解度を確認するため小試験を実施する。試験日程は、講義時間内に口頭でアナウンスすると共に、掲示板に掲示する。		
授業の進め方	講義を中心に行う。漢方薬についての理解を深めるため、エキス剤の試飲なども講義中に実施する。			
授業外学習の指示	配付した講義資料、実施した小テストを用いて知識の確認をすること。また、漢方薬は生薬の組み合わせで構成されており、個々の構成生薬については生薬学の観点から基原植物、含有成分などについても復習をかねて学習すること。  (授業外学習時間: 毎週 90 分)			

教科書	「薬学生のための漢方薬学」山田陽城 他、南江堂、4,800円、ISBN 978-4-524-4021
参考書	「学生のための漢方医学テキスト」日本東洋医学会学術教育委員会(編)、南江堂、2,500円、ISBN 978-4-524-25031-8
参考URLなど	
その他	薬剤師に求められる10の基本的な資質のうち、⑥薬物療法における実践的能力の醸成に寄与する。 アドバンスト: 5% 大学独自: 5%